2　先進校での校内研修の取組

(1) 京都府立嵯峨野高等学校

Ⅰ　情報教育の取組(主としてインターネット利用に関連するもの)

年度	研究指定等	校内体制・活用等
平成８	「こねっとプラン」参加	「こねっとプラン」会議設立 各種情報収集に利用
９	文部省指定「インターネット利用実践研究地域指定」(～１０年度)	「インターネット会議」設立 京都みらいネット開通　64kbps常時接続 ホームページ作成 授業活用に重点化
１０	文部省指定「光ファイバー網による学校ネットワーク活用方法開発事業実践研究校」 (～１２年度)	企画研究部設立 ホームページに中高連携のページを開設
１１		総合教育センターと光ファイバー回線1.5Mbpsで常時接続 特別講義を府立工業高校へ配信 京田辺市立薪小学校との双方向通信
１２		インターネットによる太平洋環境に関する調査研究

Ⅱ　校内研修

年度	テーマ	研修目的・内容
平成１０	・校内ネットワークの利用(新転入者)	・校内ネットワークの概要 ・校内ネットワークの活用方法を習得する。
	・インターネット活用の基礎	・コンピュータやインターネットの基本操作を習得し、それらを活用した教材・資料を作成して、授業での活用を図る。
	・インターネットを通じた情報発信の基礎	・ＨＴＭＬによるホームページ作成と電子メールの操作方法を習得する。また、ネットワーク上のマナーや個人情報の保護及び著作権等に関する理解を深め、教育活動で実践できるようにする。
１１	・校内ネットワークの利用(新転入者)	・校内ネットワークの概要 ・校内ネットワークの活用方法を習得する。
	・プレゼンテーションソフトの利用	・プレゼンテーションソフトの基本機能を理解し、効果的な提示方法とその作成方法を習得する。

	・情報教育の意義とその推進	・平成11年度研究事業、2000年問題、新教科「情報」、嵯峨野高校ホームページについて等の説明
12	・校内ネットワークの利用（新転入者）	・校内ネットワークの概要 ・校内ネットワークの活用方法を習得する。
	・プレゼンテーションソフトの活用	・プレゼンテーションソフトを使用して授業や校務等に具体的に活用する方法を研修して、効果的な活用技術を習得する。
13	・校内ネットワークの利用（新転入者）	・校内ネットワークの概要 ・校内ネットワークの活用方法を習得する。
	・セキュリティの確保とその指導方法	・電子メールやブラウザから進入してくるコンピュータウィルスに感染しない設定や対処方法について習得する。 ・生徒の実習における適切な指導方法を習得する。
	・ワープロソフトの活用	・ワープロソフトの概要と基本操作及びその活用法を習得する。
	・表計算ソフトの利用	・表計算ソフトの概要と基本操作及びその活用法を習得する。
	・表計算ソフトの活用	・表計算ソフトを使用して授業や校務等に具体的に活用する方法を習得する。

情報教育に関する校内研修については、企画研究部の教職員や情報教育アドバイザーが講師となり実施している。内容については、定期的に必要な内容の講座と、希望調査に基づく教職員の要望の高い内容の講座を行っている。

校内研修の成果もあって、嵯峨野高校の教職員のコンピュータスキルについては一定のレベルに達しており、授業等でも積極的に活用されている。特に「京都こすもす科」を中心に光ファイバー回線を利用したマルチメディア配信の取組を行い、様々な成果と課題が明らかになった。それらを踏まえ、更に効果的な活用方法についての研究を、校内研修と並行しながら進めている。

Ⅲ　「京都こすもす科」の概要

「京都こすもす科」は、京都の特性を生かした三つの各系統（人文芸術系統、国際文化系統、自然科学系統）の目標に沿った専門教育を行うことにより、日本人としてのアイデンティティーを確立し、社会や文化の発展に貢献する態度、能力を養うことを目標に設置された学科である。

この学科の教育内容の特徴は、①特色ある科目の学習　②弾力的な履修形態「総合選択制」③実験・演習・実習などを通じた学習内容の理解　④社会人講師による指導　⑤資格取得へのチャレンジなどである。

この中で、京都らしさを最も表したものが１年生の必修科目「京都文化論」である。学級を単位に「京都」をテーマにフィールドワーク、調べ学習等を通して、「学び方を学ぶ」ことを目標にしている。

(1) 「京都文化論」指導計画と情報教育の取組

「京都文化論」の目標

京都文化の基礎となる風土、民俗、言葉を歴史的に把握し、これからの京都の可能性について考察すること。

「京都文化論」年間指導計画と位置付け

月	学習内容		フィールドワーク・演習	
4月	京都の歴史的な流れ	京都文化論を学ぶ意味 平安遷都以前の京都	・蛇塚古墳 ・京都文化博物館	学び方の方法を学ぶ
5月		平安遷都 ・新しい王朝の成立 ・王朝貴族の美意識 ・金閣と銀閣 ・関ヶ原のあと など	・京都御所（希望者） ・葵祭 ・京都薪能 ・祇園祭（インタビュー） ・市民狂言会	
6月				
7月		近代京都の誕生 ・遷都をこえて ・京都再生	・琵琶湖疎水記念館 ・祇園祭（山鉾巡行）	
夏休み	京都文化フィールドワークツアー（希望者）			
9月	京都文化の各論	京都文化の特質 ・文化とは何か ・京都の自然と生産文化 ・農業について ・漁業について ・林業について ・京ことばと年中行事 ・京都の伝統文化 ・京都の産業と経済の発達 ・丹波、丹後、南山城の人々の暮らしと文化 など	・京都府立総合資料館など ・社会人講師	自分たちなりに調べ理解する
10月			・各種資料館 ・時代祭	
11月			・みやこメッセ ・京都市歴史資料館 ・社会人講師 ・西陣織会館など ・能楽鑑賞（隔年）	
12月			・丹後郷土資料館 ・山城郷土資料館 ほか	
冬休み	論文準備			
1月	京都文化の未来を考える	京都文化論の展開 ・京都の文化的風土 ・京都の創造論 ・京都の未来総論	・演習 ・ディベート	理解したものを発信する
2月			・演習 ・ディスカッション	
3月		京都の未来を創造する	・論文完成 ・論文発表会	

「京都文化論」そのものが情報活用能力を育成する科目である。

学習内容では、１学期に京都の通史的な流れを押さえた上で、２学期に京都文化の各論を学び、３学期には学習した内容を基に京都文化の未来を考える、という構成になっている。

一方、学び方の面では、１学期は学び方の方法を「学ぶ」、２学期は学んだ方法を使って自分たちなりに調べ「理解する」、３学期は理解したものを「発信する」という３段階を踏んだ構成になっている。

(2) 授業等でのコンピュータ活用

光ファイバー回線によって可能となる高速・大容量通信を生かして、日常の授業の他に、他校との間でマルチメディア情報の送受信を実施した。

ア　特別講義の他校への配信

講義の実施概要

日　　時	平成11年11月22日(月)　午後１時30分～３時
場　　所	嵯峨野高校コモンホール、府立工業高校（光ファイバー設置校）
講　　師	財団法人　冷泉家時雨亭文庫　事務局長　冷泉貴実子氏
講 義 題	「冷泉家の歴史と伝統文化」
対象生徒	嵯峨野高校　　京都こすもす科第１学年全員（京都文化論） 府立工業高校　情報システム科第３学年（国語Ⅱ）
接続概要	ビデオカメラ → エンコーダ → 光ファイバー回線→ 総合教育センター → 光ファイバー回線 → デコーダ → プロジェクタ

イ　他校種の児童生徒との交流

発表会の実施概要

日　　時	平成12年３月13日(月)　午後２時～３時30分
場　　所	嵯峨野高校コモンホール、京田辺市立薪小学校（光ファイバー設置校）
発 表 者	嵯峨野高校京都こすもす科第１学年（３グループ） 薪小学校第６学年（１グループ）
内　　容	嵯峨野高校の生徒発表 「小京都と薄れゆく京都」「京都の老舗を訪ねて」 「私たちのまち　一休さんの住んだまちを見てみよう」 薪小学校の児童発表 「総合的な学習の時間」
接続概要	嵯峨野高校から薪小学校へは、上記アと同じ 薪小学校から嵯峨野高校へは、動画再生ソフト→モニタ

ウ　日常の教育活動におけるインターネットの利用

・「情報処理Ⅱ」におけるネットワークに関する学習

京都こすもす科第３学年　選択科目　２単位

目　　的　　「情報処理Ｉ」で得られたコンピュータリテラシーを基礎に、本格的なインターネットの利用を通して、「情報」の効率的な収集と活用に習熟すること。

概　　要　　Ｗｅｂページの設計・作成に関する学習

Ｗｅｂページ作成の観点で、Ｗｅｂページの閲覧を行う。

「新聞記事読み比べ」「ホームページの内容・デザインの比較」

テーマの決定、WWWを用いた資料の収集、分析

グループのテーマ例

「骨粗鬆症について」「地球温暖化について」「絶滅動物について」等

Ｗｅｂページの作成

成　　果　　生徒は前向きに取り組んでいた。情報の収集、分析、加工、外部との連絡等をすべてコンピュータ上で行うことにより、２年次に学習したコンピュータリテラシーの総合な実習となった。

課　　題　　調べ学習を行う際、コンピュータ上の断片的な電子情報の寄せ集めに終始しがちな学習活動となり、自分たちの考えや意見を十分に盛り込むところまで至らなかった。

・「比較文化論」における調査研究での活用

京都こすもす科人文芸術系統及び国際文化系統　第２学年　選択科目　２単位

目　　的　　英語を通して日本文化及び異文化を客観的に見つめ、その多様性と価値を受容することによって、自文化中心主義を超えた、真の国際感覚を養うこと。

概　　要　　３～５人のグループで海外の学校関係者を調査対象に、インターネットを利用して、自分たちの興味ある事項についてアンケート調査を行い、収集した結果を発表する。生の英文に接し、より実践的な英語力の向上を図るねらいも含まれている。

テーマ例　「学校での生活」「若者の文化・流行」「日本に対する認識」等

アンケート調査方法

海外の学校に直接電子メールを送信する。

ＩＥＣＣに投稿する。（ＩＥＣＣ：幼稚園から高等教育までを対象とした、電子メール利用の教育交流プロジェクト）

成　　果　　資料や書籍によるのでなく、回答者の膨大な生の英文に直接接することで、英文によるコミュニケーションができ、生徒にとって貴重で感動的な経験となった。

課　　題　　コンピュータ操作の習熟度に差があるため、不慣れな生徒が学習活動において、内容面よりも操作面に神経を使う場面が見られた。

(2) 京都府立城陽養護学校

Ⅰ　教育課程及び教育活動の特徴と校内研修の課題

学校の教育目標	①　いのちを大切にして、生きる力を育てる。 ②　心豊かにたくましく生き抜く意欲と態度を育てる。 ③　自立し社会参加する力を育てる。

	対象児童生徒	○ 指導目標 目指す児童生徒像	教育課程及び教育活動の特徴
重心教育部	国立療養所南京都病院に入院している重症心身障害児 (重度知的障害と重度肢体不自由等を重複)	○　障害に基づく種々の困難の改善・克服を図りながら、毎日を快く生き抜く力を育てる。 ○　様々な働きかけを受け止め、主体的に働きかける力を育てる。 ○　気持の変化を表情などで豊かに表現したり、欲求や要求を伝えたりする力を育てる。 ○　指導者との共感関係を豊かにし、友だちの中で育ち合う力を育てる。 ◎　毎日を快く、力いっぱい生きる児童生徒 ◎　働きかけを受けとめ、生き生きと活動する児童生徒 ◎　自分の気持ちを表現する児童生徒 ◎　仲間とともに育つ児童生徒	○　教育課程は、「領域･教科を合わせた指導(遊びの指導、日常生活の指導)」「自立活動の時間の指導」の二つの柱で編成し、**個別の指導計画に基づく授業**を行う。 ○　学校での授業は、月･火･木･金は全日、水･土は半日で実施し、病状によっては病棟内指導を行う。 ○　呼吸障害、摂食障害などのある児童生徒は適切な医療･看護の下で教育を行う。 ○　視覚、聴覚等に働きかける総合的な感覚刺激を組織する**マルチメディア関連機器の活用等教育方法の工夫**
病弱教育部	喘息・腎炎・肥満等慢性の病気や身体虚弱により小・中学校生活が困難で入院加療が必要と判断され、国立療養所南京都病院に入院している児童生徒	○　豊かな心とたくましく生きる力を育てる。 ○　生涯を通じて病状に留意して生活する力を育てる。 ○　個に応じた指導を推進する。 ○　自主性や創造性を育てる。 ○　豊かな人間関係を育てる。 ◎　病気に負けず、生命を大切にする児童生徒 ◎　豊かな心や夢をもつ児童生徒 ◎　意欲的に生き生きと活動する児童生徒 ◎　助け合い、育ち合う児童生徒	○　小学校及び中学校と同じ教育課程(但し、体育１時間→自立活動) ○　前籍校での履修内容や学習進度を踏まえた**個別の実態及び指導の記録表等**に基づく**個に応じた指導** ○　退院後の地域での生活・学習の充実を踏まえた**前籍校等との交流教育** ○　入院に伴う少人数での学習等を補うための、**マルチメディア活用等教育方法の工夫**
通学高等部	中学校を卒業した自主通学可能な軽度の知的障害生徒	自立と社会参加を目指し ○　基礎学力の伸長を図る。 ○　強い体力と忍耐力を養う。 ○　自立のための意欲・態度を育てる。 ○　対人関係を重視し、豊かな人格を育成する。 ○　社会人としての基本的な資質・能力を高める。 ◎　障害をのりこえ、力強く生きる生徒 ◎　健康で明るく、豊かな心をもった生徒 ◎　自他を大切にし、共に育ち合う生徒 ◎　社会や家庭で希望をもってたくましく自立する生徒生徒	○　学力向上のため、教科学習は習熟度別グループを編成する。 ○　体力育成のため、体育と自立活動の時間を充実する。 ○　社会性育成のため、地域とかかわりながら、ボランティア活動に参加する態度を育てる。 ○　職業能力育成のため、作業学習に３コース(木工、窯業、縫製)及び**情報処理学習**を設ける。 ○　教科別、領域・教科を合わせた指導での学習等を補うための、**マルチメディア活用等教育方法の工夫**

学校の課題	○ **個に応じた指導の充実・推進**　　○ **指導計画等の情報の共有・活用**

研修課題	**教職員のマルチメディア活用に関する指導力量の向上が必要**

平成12･13年度文部(科学)省より「マルチメディアを活用した補充指導についての調査研究」の委嘱

Ⅱ　校内研修

Ⅱ　校内研修

1　教職員の意識

○　児童生徒の学習意欲の向上を図り、少人数での学習等を補うための情報機器活用の必要性と有効性は感じているが、機器操作への不安が強い。
○　文書作成はワープロによることが既に校内では徹底しているが、情報の共有・共同利用等による授業改善、校務の効率化等の必要性についてもほぼ全員自覚している。

⬇

2　マルチメディア活用に関する校内研修一覧

➡Ⅲ 校内研修事例とその概要（P66・67）

(例　平成12年度に病弱教育部で実施したもの)

事例	月	テーマ・内容	指導担当	会場	形態	備考
1	随時	**情報機器使用について自己の課題を知ろう**	情報教育部長 情報教育ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ	パソコン学習室	ﾏﾝﾂｰﾏﾝ実技演習	ｱﾝｹｰﾄ★(下図)で把握した個別課題に基づいて
2	5	教育活動と著作権	情報教育部(全校)	会議室	講義	他の教育部と合同
3	8	**ネットワークコンピュータを活用しよう**	情報教育部		実技演習	パソコン学習室の整備に伴う研修
4	6 8 9	**グループウェアソフト※１を授業改善に活用しよう**	情報教育部	N市立小学校 パソコン室	授業参観 実技演習	参観後グループウェアソフト導入を決める。
5	12	文書作成ソフトの活用	情報教育ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ	パソコン学習室	実技演習	
6	2	プレゼンテーションソフトの活用によるスライド作成	情報教育ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ	パソコン学習室	実技演習	
7	1	**学習ソフトを活用した、個に応じた有効な指導方法を探ろう**	ソフト納入担当者 ※２	パソコン学習室	実技演習	

☆他の分野の研修も含めた年間18回(月平均1.5回)の校内研修のうち、マルチメディアの活用に関する研修は、上表事例２～７の６回
※１　グループウェアソフトの詳細はＰ67の事例で説明。上表の研修以外にも夏季休業中に民間でのグループウェアソフトの活用実技講習会に参加している教職員もある。
※２　ソフト納入担当者の参加も得て、学習ソフトの使用方法等実技を研修した。

★アンケートの様式

マルチメディア利用に関するアンケート

下記の項目について当てはまる段階に○を記入してください。氏名(　　)

項目	知っている	一人で使える	児童生徒に教えられる	研修を希望する
文書作成ソフト				
学級だより等作成ソフト				
表計算ソフト				
表計算ソフトによるグラフ作成				
プレゼンテーションソフト				
デジタルカメラでの撮影と画像の利用				
スキャナを使用しての画像等の加工				
電子メールでの文書の送受信				
電子メールでの画像の送受信				
ホームページの検索				
ホームページの作成				
ＣＤ－Ｒ				
ＣＤ－ＲＷ				

※上記項目以外に、講習希望項目、知っておく必要がある項目等があれば、下欄に御記入ください。

Ⅲ　校内研修事例とその概要

テーマ	情報機器使用について自己の課題を知ろう

（Ｐ.65　事例１）

時期	随時	○　授業等必要が生じた時に教え合う教職員同士で設定

ß

研修のねらい	①　情報機器活用に当たる教職員自身が各自の研修課題を確認する。 ②　①に基づき、教職員の情報機器操作能力のレベルアップを図る。

ß

研修効果を促進する手立て・形態等	①　**事前アンケート**に基づく**課題別実習** ②　教職員自身の個別課題やニーズに対応した**小グループ**内で、習得している操作方法を相互に教え合う。 ③　情報教育部や情報教育アドバイザーによる援助

ß

評価（教職員の自己評価等）	○　アンケートにより、研究部や情報教育部が、マルチメディアの授業活用に関する教職員の技能実態を把握できた。 ○　コンピュータの機能や自己の課題を、アンケートの項目から知る機会になると共に、教職員相互に教え合う雰囲気が醸成された。

⬇

Ⅳ　研修内容を活用した指導の実践(Ｐ.68・69)

テーマ	ネットワークコンピュータを活用しよう

（Ｐ.65　事例３）

時期	８月

研修のねらい	①　**単体利用よりもネットワークとして**活用することの意義を知る。 ②　データの交換による**情報共有の便利さ**を知る。 ③　ネットワークコンピュータ使用上の留意点、情報の保存・管理方法を知る。 ④　マルチメディアを活用した授業を行える力を付ける。

ß

研修効果を促進する手立て・形態等	①　夏季休業中に２回に分けて教職員全員が研修 ②　全員が２学期に少なくとも一事例、研修成果を生かした授業実践を行うことを目標とする。

ß

評価（教職員の自己評価等）	○　マルチメディアを活用した授業が実践できた。 ○　情報の共有や共通利用により、校務の効率化が図れた。

⬇

Ⅳ　研修内容を活用した指導の実践(Ｐ.68・69)

テーマ　グループウェアソフト※を授業改善に活用しよう　（P.65　事例４）

※グループウェアソフトの機能	①１画面がノート１ページに相当する。 ②画像(写真、絵、動画)を貼り付けたり、音声を取り込んだりして、多様な表現方法が使える。 ③作成した画面＝「ノート」は電子メールで送受信したり、電子掲示板に掲示したりして交流できる。

時期　８・９月

研修のねらい	①　グループウェアソフトを活用した情報作成技術の習得 ②　グループウェアソフトを活用した情報の受発信、交流

ß

研修効果を促進する手立て・形態等	①　ねらい①の研修は夏季休業中、②の研修は２学期に実施 ②　ネットワークコンピュータを通じた、教職員同士又は教職員と児童生徒の交流のための画面作成実習 (画面内容は書籍の紹介) ③　夏季休業中に他校の授業研究会に参加

ß

評価(教職員の自己評価等)	○　教科学習の単元終了時の学習のまとめに使えるのではないか。 ○　同じソフトの導入校と交流し、他の児童の意見を聞けることなど、学習に広がりをもたせられるのではないか。

⬇

Ⅳ　研修内容を活用した指導の実践(P.68・69)

テーマ　学習ソフトを活用した、個に応じた有効な指導方法を探ろう

（P.65　事例７）

研修のねらい	①　「養護学校での学習条件(少人数等)を補充する機能」を把握する視点で、学習ソフトを試用する。 ②　授業で活用できるように学習ソフトの操作に習熟する。

ß

研修意欲を促進する手立て・形態等	①　活用する機能は一度に多く研修せず、絞って取り上げる。 ②　ソフト納入業者の援助を得て、自学自習ソフト使用を体験する。

ß

評価(教職員の自己評価等)	○　「養護学校での学習条件(少人数等)」は児童生徒全員が各自のコンピュータを操作できることでもある。それを生かす授業を構想したい。 ○　苦手な学習内容でも楽しみながら学習できるのではないか。児童生徒によっては、自学自習にも活用でき学力向上を図れるのではないか。

⬇

Ⅳ　研修内容を活用した指導の実践(P.68・69)

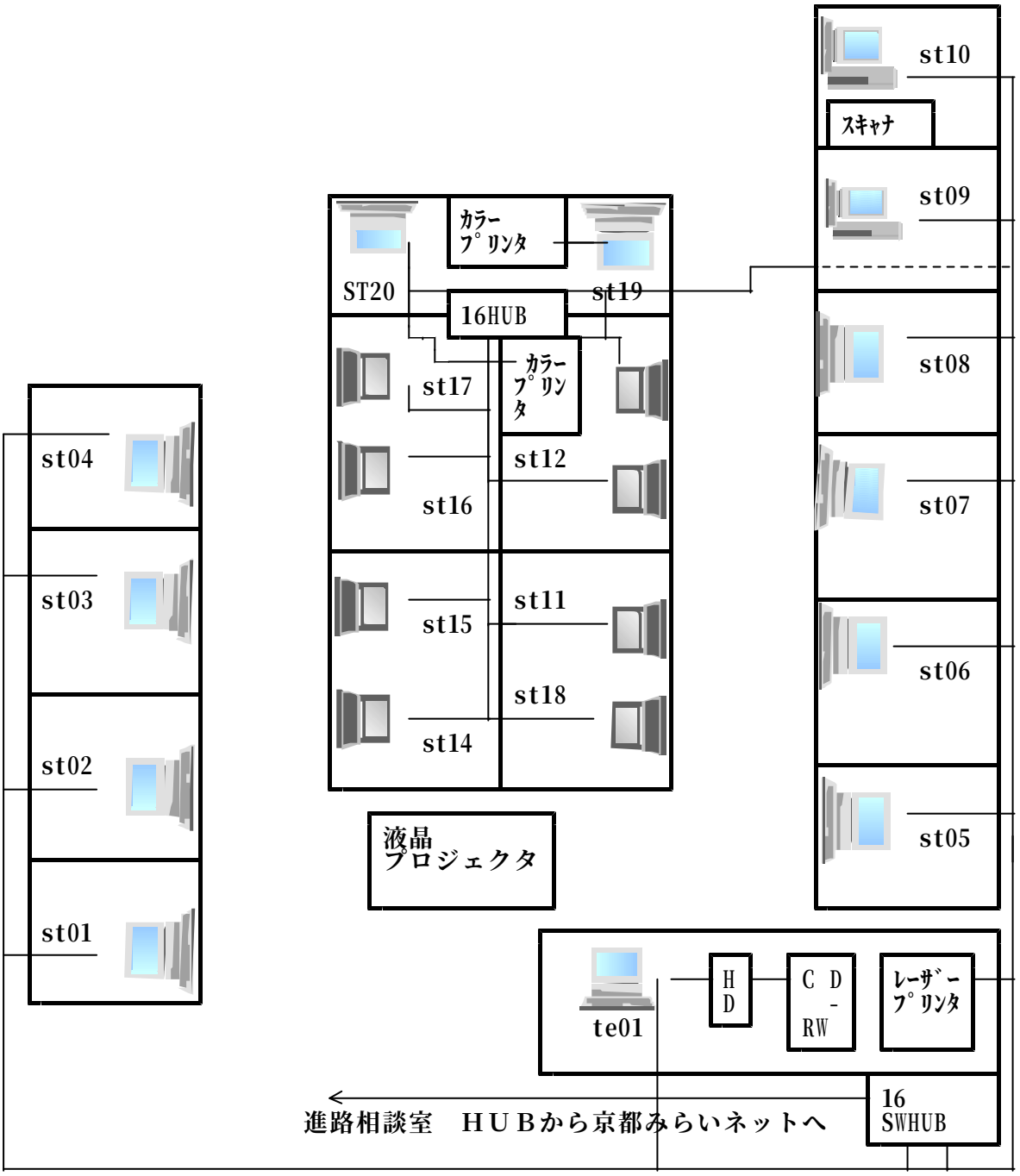
Ⅳ　研修内容を活用した指導の実践例
（重心教育部　通学高等部）

学習事例	重心教育部	通学高等部１	通学高等部２
教科・領域等	遊びの指導	社会・進路指導	自立活動
学年･児童生徒数	中２・２名 高１・２名、高３・１名	高３　　１４名	高１　　２０名
題材	ガリバー旅行記	私たちの卒業後計画	スポーツテスト
マルチメディア活用にかかわる児童生徒の実態等	感覚刺激等の情報提示の繰り返しにより、次の場面を期待できる。	１学年の時から情報処理の学習で、ﾜｰﾌﾟﾛｿﾌﾄ等の起動などｺﾝﾋﾟｭｰﾀ操作には慣れている。	ﾜｰﾌﾟﾛｿﾌﾄの起動、文字入力などｺﾝﾋﾟｭｰﾀ操作は経験済みである。
マルチメディア活用にかかわる指導のねらい	機器の機能を生かした場面の雰囲気の変化、個別課題に対応した感覚刺激を受け止める。	ｲﾝﾀｰﾈｯﾄから就職先の事業所や関連企業の具体的情報を得て、就労意欲を一層高める。	自己の体力の現状を表計算ｿﾌﾄの操作を通じて、ｸﾞﾗﾌで視覚的にとらえ、効果的なﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ種目・方法の選択をする。
使用マルチメディア、ソフト、周辺機器等	ｽﾃﾚｵ装置、ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾀ、実物投影機等	ﾜｰﾌﾟﾛｿﾌﾄ、ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ ｸﾞﾗﾌｨｯｸｿﾌﾄ ﾃﾞｼﾀﾙｶﾒﾗ	表計算ｿﾌﾄ
学習活動	音楽や登場人物の足音を聴いたり、ｽｸﾘｰﾝに映る画像や動画を見る。	就職・進学予定の事業所・学校等のﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞから資料を取り込み、ﾜｰﾌﾟﾛｿﾌﾄを使用して、発表用資料に整理する。	各自のﾃﾞｰﾀを表計算ｿﾌﾄで入力処理、ｸﾞﾗﾌにして、体力の特徴などを知る。
指導改善としての成果	・興味・関心を引き出す気持ちを揺さぶる雰囲気作りができた。 ・雰囲気の変化を効果的に設定	事業所の概要や工程を改めて知り、就労への意欲を一層高めた。友人の報告を聞き、進路情報・選択の幅を広げられた。	自己の体力のｱﾝﾊﾞﾗﾝｽなどの特徴を知り、運動・ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞへの興味・関心の高まりが見られた。
課題・留意点等	機械的音声と生の音声との両方を提示することで聴覚受容の違いへの働きかけを設定する。	生徒の操作力の個人差に対応するための指導者の研修	生徒の操作力の個人差に対応するための指導者の研修

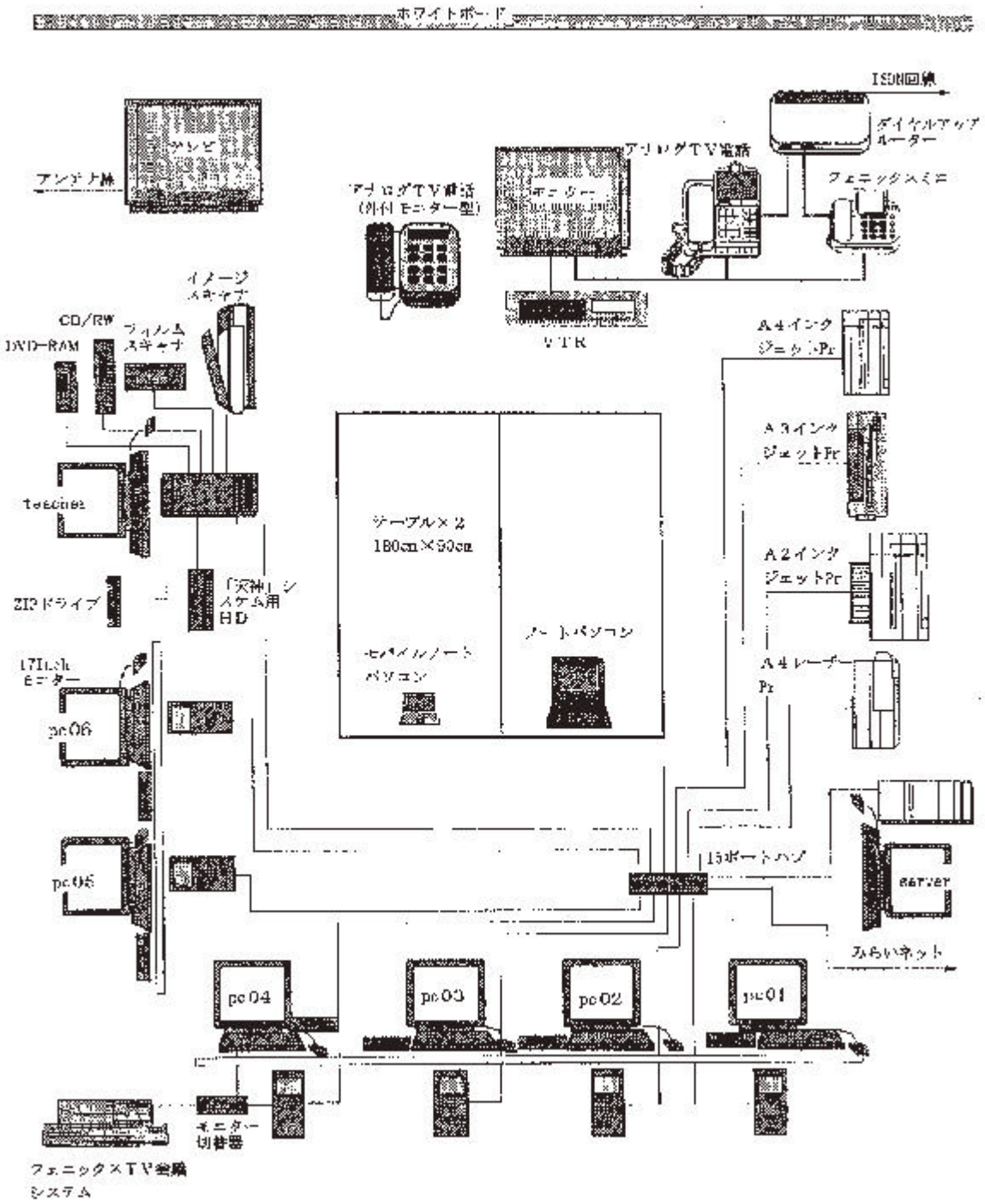
(病弱教育部　小・中学部)

学習事例	病弱教育部１	病弱教育部２	病弱教育部３
教科・領域等	国際理解教育	算数	音楽
学年･児童生徒数	小６～中３　　１１名	小５　本校２名 Ｕ市Ｋ小(へき地校)	中３　　３名
題材	海外日本人学校との交流	三角形、平行四辺形の面積	アンサンブルの楽しみ
マルチメディア活用にかかわる児童生徒の実態等	･体験･情報が限られる病棟生活 ･表現力等対人関係の弱さ	･少人数のため集団的に思考を深めることが難しい。	･病気のため素早い指使いに難しさがあり、演奏できる楽器が限られる。 ･少人数のため少ない音色の合奏になる。
マルチメディア活用にかかわる指導のねらい	学習環境における情報受発信範囲の拡大と、意欲･関心等の喚起により ･外国文化･伝統の理解 ･ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力の向上を図る。	他校とのＴＶ会議を通して、相互の意見を分かりやすく発表し、交流することで思考を深め、少人数での学習を補完する。 (算数としてのねらいは略)	コンピュータによる楽器演奏を取り入れた合奏によりアンサンブルの表現を豊かにする。
使用マルチメディア、ソフト、周辺機器等	グループウェアソフト (電子メール機能を含む)	ＴＶ会議システム	作曲ソフト、キーボード、ミディ音源、スピーカーなど
学習活動	･質問事項作成(事前) ･電子メール作成 ･送受信	ＴＶ会議を通じて発問への意見発表や、意見への相互質問等	楽譜の入力と演奏 自己パートの練習
指導改善としての成果	･異文化への気付きを促進した。 ･外国への関心や表現意欲を喚起した。	同じ意見を聞き自信をもったり、異なる意見に驚いたり、問題解決的思考への意欲を喚起した。	音符の入力作業により、音を、聴覚だけでなく視覚も合わせてつかむことで、意欲的になり、他の記号等楽典的知識理解にもつながった。
課題･留意点等	･文字入力の遅い児童への指導 ･相手校にｸﾞﾙｰﾌﾟｳｪｱｿﾌﾄが未設置→ｲﾝﾀｰﾈｯﾄからﾋﾞｭｱｿﾌﾄのﾀﾞｳﾝﾛｰﾄﾞを依頼	･教職員の操作の習熟 ･ＴＶ会議システムの軽便化(ｶﾒﾗ･ﾘﾓｺﾝ化等) ･計画的実施を踏まえた相手校との調整	･機器やソフトの機能に関する指導者の習熟 ･機械に合わせて演奏してしまうことにならないよう配慮

学習室導入機器等の概要(１)通学高等部



コンピュータ室以外の校内ＬＡＮの概要

・校長室、職員室、事務室、保健室学習室に校内ＬＡＮを設置しているので、教職員は各自の机上のコンピュータからインターネットや校内サーバの情報にアクセスすることが可能である。
・病弱教育部の図書コーナーには、インターネットに接続したコンピュータを２台設置している。
・通学高等部の進路相談室には８ポートＨＵＢを設置しているので、生徒の進路学習や進路指導におけるコンピュータを使ったネットワークの利用が可能である。

学習室導入機器等の概要(２)病弱教育部